

# 令和4年度学校自己評価表(西武学園文理小学校)

令和5年6月

目指す学校像	「学ぶ楽しさ」を知り、豊かな知性と人間性を備えた真の国際人となるための基礎作りをする。	達成度	A	ほぼ達成(80%以上)
重点目標	「こころ」「知性」「国際性」を身につけた児童の養成を重点とした授業展開、生活指導体系を確立する。		B	概ね達成(60%以上)
			C	変化の兆し(40%以上)
			D	不十分(40%未満)

学校自己評価			学校関係者評価			
年度目標		年度評価				
No.	課題項目	具体的な方策	課題項目の達成状況	自己評価	次年度への課題	意見・要望など
1	こころを育てる 基本的生活習慣とマナーを身につけ、挨拶や礼儀作法を徹底する	登下校時の正門での気持ちの良い挨拶を習慣化し、授業の開始、終了時はもちろん、廊下などでも積極的・自発的な挨拶を促す。	登下校時の挨拶が正しく行える児童が増えた。授業の始業、終業時も気持ちよい挨拶ができる学級が多かった。児童会による朝の挨拶運動などもあり、積極的・自発的に挨拶を行う雰囲気醸成されてきた。	A	登下校時、授業開始・終了時、しっかりと挨拶できる児童が増えている。高学年児童が模範となる挨拶を進んでできるように、さらに促していきたい。	登下校時の集合において、子供たちがホームや階段を走ることなく歩行できるよう、さらなるマナー指導が必要。学年担当の先生のきめ細かく誠実な姿勢に、100%の信頼と安心感に包まれた1年間だった。感情的な言葉や大声ではなく、一人ひとりを尊重した授業や関わり、声がけが子どもたちの心にきちんと届き、成長していることが、授業参観等よくわかった。こうした学校であることをとても嬉しく、有り難く感じている。
		行事や縦割り活動(ペア活動)、通学班活動などでの異学年間交流を推進し、他者を思いやり、協力する心やリーダーシップを育成する。	縦割り活動(ペア活動)のコロナ対応上の制限が少なくなり、異学年間での活動にさらなる工夫が見られた。委員会活動、クラブ活動、CA活動などで上級生が下級生をリードする姿が見られた。	A	縦割り活動(ペア活動・登校サポート・委員会活動・クラブ活動・CA活動など)の中でも、特にペア活動を活性化することにより、思いやりや感謝の気持ち・リーダーシップ、フォローシップを育成する。	社会生活の基盤となる登下校を含めた学校生活全般において、ルールやマナーを守り、他者と気持ちよく共存・協働できる雰囲気づくりと、一般の方への気遣いができるよう指導していきたい。
		児童朝会などを通して、校訓である「誠実」「信頼」「奉仕」を実践した児童、生活目標を達成した児童、また学外コンクールなどに積極的に取り組んだ児童を表彰する機会を設ける。	多くの児童が積極的に学外コンクールに参加・出品するとともに、受賞者が学年集会で表彰されたり学校広報紙で紹介されたりする姿を全校で称賛することができた。	A		ペア活動で一緒になった上級生の児童の話を家でよく聞かせてくれた。とても面倒見の良いお兄さんだったようで、「ほくもあんな6年生になりたい」という言葉を聞き、縦割り活動(ペア活動)がとても有意義な活動になっていたと感じた。
2	知性を育てる 文理小学校の一員として誇りを持って行動できる児童を育成する	本校卒業生の講話などを取り入れ、文理小学校の児童としての誇りと、先輩への憧れ、そして夢を持ち、それに向かって一層の努力をしようという意欲を育てる。教育内容の充実と、情報の開示およびわかりやすい広報活動に努め、保護者の信頼と理解を深めると共に、協力が得られるようにする。	コロナ環境下での制限があったものの、文理中学・高等学校との交流が工夫して行えた。その中でも、中学校CA活動に参加して体験学習をしたり、中高部活動や委員会の生徒が来校して児童との交流を持つことで、児童一人ひとりが自らの将来への見通しを持つことができた。	B	中学生・高校生との交流機会をさらに増やすことにより、児童にとっての数年後のモデルを示し見通しを持たせたい。また、卒業生講演会を定期的に開催しキャリア設計への児童のモチベーションを高めたい。学外清掃など、地域への貢献の機会を増やし、公共へ貢献していく心の育成をはかる。	卒業生や中高生との関わりが、子どもたちにとって自分の将来を思い描く良い機会となっていると思う。これからの未来は多様であり、多くの可能性があるということを卒業生の姿をもって伝えてほしい。もう少し地域との関わりが持てるプログラムがあると良い。近隣住民への感謝の心を子どもたちに持ってほしい。
		体験的な学習を通して学ぶことの楽しさを体感させるとともに、基礎学力の徹底を図る。文理中学校への進学に向け十分な学力と思考力を養う。また、プレゼンテーション能力も身に付ける。	校外学習や体験学習を積極的に行い、学ぶことの楽しさを体感させ、基礎学力の土台をつくることができた。情報の授業では、1年時から全学年で自ら作成した資料を投影しながらプレゼンテーションを行い、6年時の卒業研究発表会につなげることができている。	A	各教員の授業力向上のための新たな研究・研修の機会を創出する。基礎学力の定着のために、休み時間や放課後の補習指導(復習テスト)の機会を定期的に持つ。「表現力、プレゼンテーション能力の育成」の観点に絞った6年間の指導計画を策定する。	担任の先生にはきめ細かくみていただき感謝している。たくさん校外学習も充実していて、子どもたちの好奇心や探究心をより引き出してくれている。英語について、できる児童の能力をさらに伸ばす仕組みにしていきたい。レベル分けも必要だと思う。学力差が目立ってきていると思う。学力の低い生徒へのフォローをお願いしたい。授業に補助の先生を増やす等の、きめ細やかな指導をお願いしたい。日頃から成績に不安がある児童の保護者には連絡をしてアドバイスをお願いしたい。課題(宿題)が多いように感じ、理解が深まっているか心配だ。
		学力向上を図るため、授業や家庭での学習指導の内容の充実を図る。チームティーチングの実施や不得意科目をもつ児童への対応を心掛ける。	算数においては、チームティーチング、コース別(習熟度別)学習を実施し、一定の効果を上げている。基礎事項の定着が遅い児童においては、業間休みや放課後の補習・再テストなどを通して理解の定着を図った。	B	現在算数で実施しているコース別(習熟度別)学習を参考に、他教科においても導入することができるか検討する。今年度からタブレット端末(iPad)を全児童が持つことで、授業の進め方や課題の提出方法などに変化が生じ、効率的に学習を進めることができるようになったが、その分、いままでの学習の中から落としてしまっていることがないか精査が必要である。	iPadを効果的に利用して、家庭学習にも活用することができるようになった。iPad導入に伴い荷物が増えたことが気になる。家庭学習の必要に応じて持ち帰りを指導いただけると助かる。
3	国際性を育てる 真の国際人になるための基本的な能力と広い視野を養成する	小・中・高12年一貫の教育指導体制を確立する	中学・高校との情報交換および協力態勢を密にし、中高の生徒の実態や本校卒業生の様子や傾向を把握し、小学校における今後の指導に生かすなど、12年一貫の教育指導体制の確立を図る。	A	12年間の一貫教育をより充実させるために、各教科・分掌において小中高グランドデザインを作成し情報共有・共通理解を図るとともに、保護者にや外部協力機関へ適宜情報を提供する必要がある。より魅力ある学校づくりへ向け、国際理解/英語教育とSTEM教育の両面から教授方法についての検討を継続する。	文理小学校から文理中高に進み、志望大学に進学した生徒と保護者の方に、小学生の時はどのように過ごしたのか、勉強や習い事、遊びの配分などを聞いてみたいので、講演会開催かもしくは文書にまとめてほしい。小と中高のスムーズな接続のために、小中高連絡会をさらに発展させ、よりきめ細やかな指導体系づくりが必要である。
		学園の長期ビジョン・第一次中期計画を踏まえ、本校の特色を生かした小中高の一貫カリキュラムの構築を図る。	英語教育とSTEM教育・ICT教育の両面から、私学として最先端の教育を児童に提供できるよう、学校改革に向けた検討を継続している。	A		
		英語の授業や音楽・図工・体育・情報の授業の中での英語(文理イメージ授業)の充実、日常生活の中での英語表現の使用や、海外研修をはじめとする外国人との交流や文化の交換等を通して、国際人としての素地を養う。	音楽・図工・体育・情報において、英語と日本語での「文理イメージ授業」を実施した。インバウンドの学校交流行事を企画し、児童が英語を使って積極的に文化交流を行った。	A	休み時間に児童が外国人英語講師と接する機会をより多く設定し、多様性尊重の心を育てていくのと同時に、リスニング力やスピーキング力のさらなる伸長をはかる。学年に応じてバランスの取れた4技能育成を意識した英語科指導法の検討を継続する。	学校の勉強だけで5年生で英検3級に合格することが出来、英語のシャワーを実感した。COVID-19により英国、米国研修は実施されなかったが、多くのイベントを企画実行した先生方には心より感謝したい。インバウンド学校交流会は、一人ひとりが英語を用いて交流することができ、準備期間含めてとても有意義な経験となっている。
3	国際性を育てる 真の国際人になるための基本的な能力と広い視野を養成する	海外研修を通して、語学力の伸長や異文化理解を深める。国際交流を進める中でプレゼンテーション能力、コミュニケーション能力の伸長を図る。	令和4年度も海外研修の実施は見送ったが、代替研修においてオンラインで海外との交流活動を行った。また、低学年においても、国内でのイングリッシュキャンプを行い、英語でのコミュニケーション力育成に努めた。	A	海外研修の再開にあたって、過去に実施した研修を振り返り、現在籍の児童にあった研修プログラムへ更新する。海外研修のほかにも、海外の学校とオンラインで交流する機会や、インバウンド学校交流の場を少しでも多く持ち、文化交流や英語使用の実践の場を児童に提供する。低学年におけるイングリッシュキャンプ(国内/任意)を継続し、英語学習のモチベーションアップにつなげる。和食作法教室、百人一首大会、七夕飾りつけ、農業体験などを通じて、伝統的日本文化の理解を促す。	「文理に行ったら日常会話(英語)は当たり前ができる」というようになって欲しい。英検の対策をさらに手厚くおこなってほしい。英語のリスニングマラソンなどに活用できる家庭学習素材を複数提示してほしい。Reading、Writingも重要なのは理解しているが、やはり小学生のうちは、Listening、Speaking、Talkingを重視して欲しい。
		日本人としての自己意識を確立するために、日本の伝統文化を理解し、習得するための体験学習(礼儀作法等を含む日本食の作法体験、茶道実習、書き初め、七夕飾り、おもちつき大会、百人一首大会、田植え、稻刈り、神社奉納等々)の充実を図る。	学校行事に日本の伝統文化を取り入れ、児童が体験できるように工夫した。将来国際人として活躍するには日本の伝統をしっかりと身に付ける必要があることを児童は理解した。	A		